

ふる〜ぶ

吉野川ファン通信

「ふる〜ぶ」はフランス語 (fleuve) で海にそそぐ大河のことです。
ひと、まち、自然、歴史、風景などの吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えします。

VOL.107
2009/1



1
page

【特集】

吉野川アラカルト

二人の博士
三宅速とアインシュタイン
舞中島からはじまるストーリー

3
page

過去から未来へ

半田手延べそうめん一筋
森脇 初さん 千里さん 輝明さん

4
page

ふる〜ぶ編集部がおじゃましま〜す!

三島中学校の巻
郷土の偉人に学ぶ「二人の博士」

5
page

ふる〜ぶめいと通信

貞光工高と企業合同防災訓練
やねこじき

6
page

源流域からの便り

第7便

ふる〜ぶ INFORMATION

吉野川レキ河原再生試験施工について

7
page

よりよい吉野川づくり【第44回】

吉野川水系河川整備計画【原案】について
公聴会を開催します!

ふる〜ぶひろ・ば

編集後記・プレゼント



チュウビ【タカ目 タカ科】

トビより少し小さめ。

オスは頭から背が灰色で褐色模様があるもの、
背が黒色で小さい白い模様があるものなど、
いろいろなタイプがあります。

メスは全体的に赤茶色です。

二人の博士

み やけ はやり

三宅速とアインシュタイン ～舞中島からはじまるストーリー～



善入寺島、中島島とともに吉野川の
三大川中島として、知られている舞中島。
吉野川南岸の美馬市穴吹町三島地区に
位置しています。
古くから、洪水に悩まされてきたこの地域。
洪水を避けるための高い石垣、
水防竹林などが洪水との戦いを今に感じさせます。
この舞中島の光泉寺にこんな石碑があります。



光泉寺の友情の碑



ここに、三宅速博士と三保夫人が眠る。
ふたりは、人々の幸せのために働き、
人々の迷いの犠牲となり世を去った。

アルベルト・アインシュタイン

ここから、ふたりの博士のストーリーが
はじまります。

郷土の偉人誕生

1866年3月16日、徳島県美馬郡三島村（現美馬市穴吹町）の三宅家に、誕生した男児。

この男児こそが三宅速博士です。
なんと速は、12歳で上京し、そこで英才教育を受け、1887年に東京帝国



三宅速博士

大学（現在の東京大学）に入
学し、主席で卒業しました。そ
の後、徳島に戻り、徳島県内初
の私立の病院を開業しました。

1898年、32歳の時に、三保夫人
と結婚。その後、ドイツに留学し、胆石
症の研究に取り組むと共に、恩師とな

るミクリツ博士と出会い、胃癌の治
療を学びました。その後、胆石症700
例以上、胃癌1,600例以上、日本で初
めて、脳腫瘍摘出手術を成功させるな
ど、数々の功績を挙げ、日本を代表す
る外科医となりました。

二人の博士の出会い

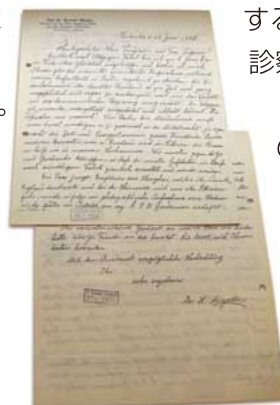
1922年、56歳の時、三宅速博士は、
文部省の命を受け、欧米諸国を視察し
て帰国途中のこと。日本の客船 北野
丸の船上で、アインシュタイン博士と
出会います。当時の客船は、国の文化
を広く世界に示す文化施設のような
もので、最高の技術と芸術が注がれて
いたそうです。読書室、ギャラリー、ト
レーニングルーム、銀行や百貨店まで
あったとか。今の飛行機のファースト

クラスとは、比べ物にならないほど豪
華で贅をつくしたものでした（アイン
シュタインLOVE展より）。そんな豪華客船
に乗船していた三宅速。
いかに世界的外科医
としてゆるぎない地
位を築いていたか伺
い知ることができます。

この船上で、日本

の出版社が企画した日本縦断ノーベ
ル賞受賞記念講演旅行のために来日
する途中のアインシュタイン博士を
診察したことが、二人の出会いでした。

二人は書簡を交わしたり、お互い
の家を訪問するまでの仲となりまし
た。



三宅速博士から、
アインシュタイン博士への手紙

三宅速博士とアインシュタイン博士。
二人が出会った北野丸で



時をこえて～アインシュタインLOVE in 美馬市～

2008年秋、美馬市では、物理学者アインシュタイン博士の功績・偉業・人柄や、三宅速博士の存在を知り、次代を担う子どもたちに科学に興味を持ってもらいたい、人の命の大切さを知ってもらいたいと、10月31日には、

脇町祥雲閣にて記念講演やシンポジウム、11月1日から7日までは、アインシュタインの素顔や人柄、生活ぶり、また貴重な肉声、ノーベル賞のメダル、相対性理論の肉筆草稿、日本に滞在した43日間の様子などのパネルや、写真を展示したアインシュタインLOVE展がマルナカ脇町店うだつフォーラムにて開催されました。

これまで全国で幾度となく開催されてきましたが、いずれも大都市圏での開催でした。この美馬市のよ

うな地方都市でこのようなアインシュタインの展示やシンポジウムが開催されたのは、初めてのことです。三宅速とアインシュタインがくれた贈り物だといえそうです。



10月31日には、半導体工学研究で世界的に有名な西澤潤一首都大学東京学長の講演や、シンポジウム、美馬市立三島中学校の生徒による美馬市プラスワンスクール推進事業で取り組んだ三宅速とアインシュタインの交流や、業績についての発表が行われました。

シンポジウムでは、三宅速博士のお孫さんでエッセイストの比企寿美子さんが登場しました。

「アインシュタインは、おじいちゃんの外国人のお友達でした。アインシュタインが亡くなった時、巨星墜つなんて、大きく報道がされましたが、学校でこの人、おじいちゃんのお友達で家にも来てたのよ。なんて言うの、学校の友達にうそでしょ。なんて言われました」とエピソードを披露してくださいました。また、アインシュタインと、三宅速がよく手紙のやり取りをしていて、アインシュタインが三宅速が到底知らないだろうと思っていたドイ

ツの医学の先進的なエピソードを手紙に書くと、既に三宅速は、そのことを知っていて、三宅速がいかに医学を突き詰めていたかを知り、驚いていたなどのエピソードを披露していただきました。そして、「アインシュタインと三宅速との関係は、自分の学問を守り、相手の学問を信用していた間柄でした」とのお話に、医学と物理を極めた者同士のゆるぎない信頼関係が伺えました。

疎開先の岡山大空襲を生き抜いた比企寿美子さん。一緒に暮らしていた三宅速夫妻は、その時最後を遂げました。そのことを話す時、つらい記憶でありながら、しっかりと、はっきりと話してくださいました。ここから、伝わって



上) アインシュタイン博士と三宅速博士が出会った北野丸
下) アインシュタインの日本滞在の様子
(アインシュタインLOVE展より)

くるのは、命が一番大切だということです。

最後に大阪府立大学名誉教授の金子務先生が、アインシュタインの成功式を教えてくださいました。

$$A = X + Y + Z$$

成功 仕事 遊び心 沈黙

アインシュタインは、多趣味で様々なことにチャレンジしていましたが、沈黙がなければ、思考を高めることはできないといていたそうです。

若い中学生たちの成功のヒントになったでしょうか？

今も、舞中島に眠る三宅速。命を大切に生きること、目標を持ちやりぬくことを私たちに教えてくれているような気がします。



「アインシュタインLOVE in 美馬市」のシンポジウムの様子(写真提供:美馬市)

過去から 未来へ

ふる〜ぶが100号を迎えた記念の年として、
取材した方々に再登場していただき、お話を伺っていきます。



同じ味を守り続ける

半田手延べそうめん一筋

向かって左から

森脇 輝明さん 千里さん 初さん

平成13年2月号の特集に登場してくださったのが、森脇初さん、奥様の千里さん、息子さんの輝明さんです。今回は7年ぶりの再会となりました。

半田手延べそうめんは、吉野川中流域を代表する特産品として知られています。半田町史によれば、製法技術が伝わってきたのが江戸時代後期。吉野川の重要な川湊のひとつであった小野浜港を行き来する船頭が伝えたと言われています。

吉野川の水と剣山から吹きおろす寒風がおいしい半田手延べそうめんをつくるといわれ、太めで色白のコシのある麺が特徴です。

最近では、地元でレシピコンテストなども開催され、道の駅貞光ゆうゆう館では、半田手延べそうめんを使ったレシピも新しいメニューとなっています。

今回、森脇さんにお会いすると、笑顔で「久しぶりですね」と迎えてくださいました。「作り方はずっと変わっていないです。同じ味を守りつづけて、みなさんに食べていただいています」と話してくださいました。材料になる

のは、小麦粉と水と塩。材料がシンプルだからこそ、少しの違いが味の変化になってしまいます。気温、湿度など日々作る環境は違いますが、同じ味を守り続けるというのも匠の技です。



親子で手分けをして作業が進められていく

半田手延べそうめん作りは朝が早く、午前2時半ごろ起床し、3時過ぎから作業が始まります。まず、小麦粉と塩水を混ぜ合わせる練りこみから始まり、「イタギ（練ったかたまりから麺の基本となる太いものを作って行く作業）」から「荒より（太い麺を細く）」、さらに

麺を細くしていく「小より」と作業が続いていきます。そして午後からはそうめんを長く伸ばしながら干していく「^{かど}庭干し（門干し）」が行われます。

今回は庭干しを見学させていただ

いたのですが、あっという間に、そうめんがきれいに伸びていきます。

一日にできるそうめんは約170キログラム。一本一本に心が込められています。

森脇さんのところには口コミで全国各地から注文があり「おいしかったです」といわれると「良かったな」と実感するそうです。

家族3人で守る伝統の味。

息子さんの輝明さんも「これからも変わらない味で美味しいそうめんを作り続けていきたい」と話していました。

つるぎ町には約40の半田手延べそうめん製造業者があり、それぞれ伝統の味が守られています。



小麦粉と塩水を混ぜた材料を寝かし、外側から切っていく



練りこみがおわった麺を板のように延ばす



「寝さし」この状態になってから一時間半寝かせる。何度か寝かせることにより麺のコシがうまれる

ふる〜ぶ 編集部が おじゃまします!



今月号の特集は、いかがでしたか？ 博士の出身地である穴吹町三島にある三島中学校は、平成19年度美馬市が平成18年度から「特色ある学校づくりと次代を担う人材の育成」を目的として進めている「ブラスワンスクール推進事業」の指定を受け、「二人の博士～三宅速とアインシュタイン～」をテーマに学習を積み重ねてきました。

全校生徒は55名。1年生は「ふるさとを知り、ふるさとに学ぶ。郷土の自然・環境・歴史・偉人を知り、『私たちの三島紹介ビデオ』を作成する」2年生は、「三宅速博士とアインシュタイン博士の交流を学び、平和についての学習をととして、命や平和の尊さをテーマにした人権劇を発表する」3年生は、「三宅速博士やアインシュタイン博士の偉業を知り、郷土に誇りを持つとともに、科学体験や企業見学をととして、理数系への関心を深め、自分自身の生き方を考える」という学年ごとのテーマを設けて学習を進めました。

1922年、三宅速博士は、欧米各国視察からの帰国途中、日本客船北野丸の船上で、日本縦断ノーベル賞受賞記念講演旅行のために来日するアインシュタイン博士を診察します。船上での二人の語らいなどを織り交ぜ、二人の心の交流や命の大切さを描いた人権劇「生きること」は本格派の超大作。各方面から反響を呼び、文化祭での上演のみならず、11月に行われた「ヒュ



昨年11月1日から、7日まで開催されたアインシュタインLOVE展でも、学習の成果が展示された

郷土の偉人に学ぶ「二人の博士」



上) 今回の学習を通じて知り合った三宅速博士の孫比企寿美子さんとの交流会。比企さんは、「いのちが一番大切」「どこにいても、小さな花を咲かせる」ことの大切さを教えてくれた人
右) 「アインシュタインLOVE in 美馬市」後の交流会のようす。学年ごとに近況を比企さんに話す



ーマンフェスタとくしま」でも上演されました。主役の三宅速博士とアインシュタイン博士役の決定にはオーディションも行い、上演にあたっては、実際にプロの劇団の劇を鑑賞したり演技指導を受けたりしました。

劇中、アインシュタイン博士と語らうシーンで三宅速博士の台詞にこんな一言が出てきます。

「学べば、学ぶほど医学の深さを知ります。私は、一生学び続け人々を救うことができたと思います。人の命

には限りがあります。私の患者さんが死と向かい合った時、最後を看取ってほしいと思われる医者になりたいのです」常に真心を持って患者と向き合い、医学の道を追求し



一昨上演された人権劇『生きること』の様子

続けた三宅速博士の心がこの台詞に込められています。

「生徒たちは、学習をととして命の尊厳や平和の尊さを改めて考え、ふるさとへの思いをいっそう強くしました。また多くの人との出会いから、ものの見方や考え方・生き方についても学ぶことができました。そしてその時々で色々なことを考え、感じ、吸収していったと思います」とおっしゃる先生方。

取材日の10月31日「アインシュタインLOVE in 美馬市」の会場で、生徒たちは1,000人近くの観客を前に学習の成果を発表しました。「三宅速博士やアインシュタイン博士の生き方に触れ、これからの自分自身の生き方を考えるきっかけとなりました。私たちは、自分の夢の実現のためにこれからも努力していきます」と発表する姿に、三島中生の輝く未来を感じ会場を後にしました。



比企さんを囲んで全校生徒で撮影



「ふる〜ぶめいと」の活動は、吉野川や吉野川流域に関する身近な情報を「ふる〜ぶ」に提供することにより、吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的にしています。

めいと
レポート

貞光工高と企業合同防災訓練

つるぎ町 大塩 邦光さん

平成20年度吉野川上流工事現場の防災訓練に合わせ、同時に貞光工高土木科の課外授業としての防災訓練が11月7日に貞光ゆうゆうパークで実施されました。

講師には、四国地方整備局の防災エキスパートである山本邦一氏になり、2時間にわたって水防に関する基本知識やロープワーク実習を行い、ロープワークでは「もやい結び」を中心に、7種類の結び方を実習しました。

訓練では、貞光工高と企業の方がさまざまな水防工法に取り組み、時間の経過も忘れるほどでした。

この日に習得した技術は、明日からの防災に役だつと思います。



めいと
レポート

やねこじき

阿波市 森 澄子さん

平成20年10月11日〜13日に市場町内の町筋の店頭に、話題にのぼった人物やテレビの主人公の人形が飾られました。これは、400年前に蜂須賀公が市場町に巡行した時、町民が感謝の気持ちとして家の前に人形を飾ったことから始まったといわれます。

そのおり「これは何か」の問いに^(注)「やねこいものですが」と説明したら、「屋根こじきと言うものか？」

と聞き違えたことから、「やねこじき」と言われるようになったと伝えられています。



福田内閣最後の晩餐



ぜんまいざむらい

平成20年度404回やねこじきで市長賞は、阿波中学校美術部が作った「福田内閣最後の晩餐」で、中学生とは思えない出来ばえでした。徳島新聞社賞は「ぜんまいざむらい」、阿波市議長賞は「ポニョの縁日」、市場青色申告会賞は、「むかしあそび直伝」などが選ばれました。

(注) やねこい……やりこい(やわらかい)という意味でかたいの反対語、ここでは粗末なものを表す



源流域からの便り

第 7 便

このコーナーでは、吉野川源流域に住む方々に暮らしや四季のうつろいを、綴っていただきます。

「吉野川の源流域」早明浦ダムのある大川村は、日本で一番人口の少ない（離島を除く）自治体です。500人を切った大川村で人口の3倍に当たる来場者を迎える大川村の一大イベント、「第25回謝肉祭」が11月3日の文化の日に開催されました。この日のために早くから様々な準備が行われました。主役の大川黒毛和牛と大川村育ちの土佐はちきん地鶏、バーベキュー用の炭やタレ、お皿は竹の筒などです。農業集団からは、それぞれに自分たちで育て作ったアメゴの塩焼きや田舎料理、新鮮野菜が販売され、会場を訪れたお客さん達に早速大川村特産品をお買いあげ頂きました。



宿泊学習



大川村ふるさとむら公社

大川村では、昭和47年に閉山した白滝鉱山跡地を利用し、村の命運をかけた「大川村総合開発計画」が施行されました。白滝小中学校閉校後は「自然教育センター白滝」に生まれ変わり、宿泊施設の機能を整え体育館

やプールを併設し、清流での川遊びや登山など自然を感じ体験する宿泊学習などが県内外の小学生児童によって行われています。

白滝鉱山は、当時最大で2千人の地区住民が生活しており、水も山のあちこちから集め大切に使っていたと聞いています。集落よりも高い場所の山をくり貫いたトンネルがあり、そこに大量の水を集めて各集落に供給するシステムが作られました。現在もそのトンネルで取水して各施設に供給されています。また、小水力発電所も稼働しています。これらは山からの水があつてのことです。そのために、村は平成元年に針葉樹林から広葉樹林の「住民の森」を作り育て、その後どんぐり銀行大川村の森づくりを継続しながら、水とのかかわりを大切にしています。

近藤 政徳さん

高知県大川村在住。
標高約750m。吉野川源流域にある社団法人大川村ふるさとむら公社専務理事。訪れる方々の心に残るようなイベントや行事を企画。地域づくりも行っている。

ふるぶ3姉妹の Information

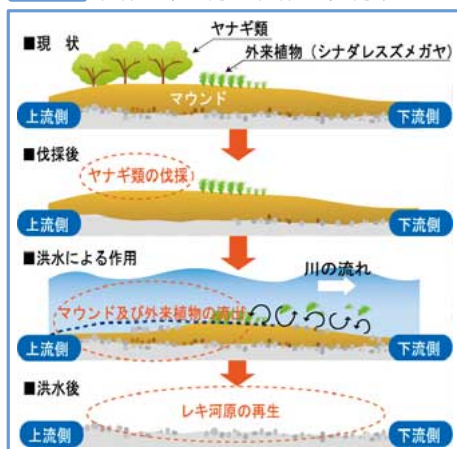
報告

吉野川レキ河原再生試験施工について

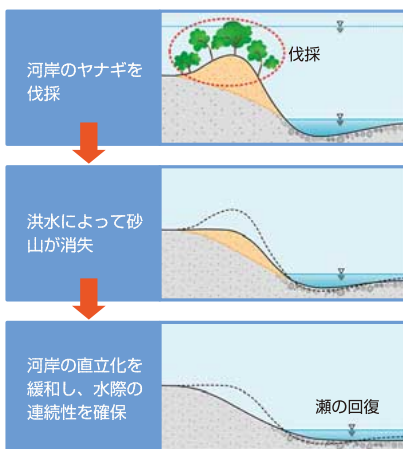
最近吉野川では、ヤナギなどの樹木が河原でたくさん生えることにより、樹木の下流側に砂山ができるなど、河原の姿が大きく変化しています。また、砂山ができることにより、外来植物であるシナダレスズメガヤが広がりやすくなるなど、もともと河原に生きる生き物への悪影響が心配されています。徳島河川国道事務所では過去に小規模な伐採を行い効果が検証できました。今回フィールドの範囲を広げてシナダレスズメガヤが侵入・拡大しにくい条件を検証するため、アカメヤナギやネコヤナギ等の伐採による試験施工を実施し、出水後の砂州の状況等を調べます。

場所 西条大橋下流から柿原堰までの砂州(19k/0~24k/2)

伐採時期 平成20年12月~平成21年1月中



ヤナギを伐採し洪水時の水の流れを良くすることによって、外来植物(シナダレスズメガヤ等)の侵入・定着を防ぎ、レキ河原が再生されるイメージ。



ヤナギを伐採し洪水時の水の流れを良くすることによって、ヤナギ周辺の砂山が流出し、なだらかな水際環境が再生されるイメージ。



ヤナギが繁茂しシナダレスズメガヤが生えている現状



レキ河原の再生(イメージ)

問い合わせ先

国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所 河川環境課

〒770-8554 徳島市上吉野町3丁目35 HPアドレス: <http://www.toku-mlit.go.jp/>

電話: 088-654-9176 FAX: 088-654-9170 Email: tokusa64@skr.mlit.go.jp

吉野川水系河川整備計画【原案】について

公聴会を開催します！

公述人募集

吉野川水系河川整備計画の策定において、「吉野川学識者会議」「吉野川流域住民の意見を聴く会」「吉野川市町村長の意見を聴く会」、パブリックコメントにより、多くの方からいただいた意見をもとに「吉野川水系河川整備計画【原案】」を作成いたしました。

今回、「吉野川水系河川整備計画【原案】」に関して、意見をお聴きするため、公述人を募集し、公聴会を開催します。

公述人の募集

募集期間

平成20年12月26日(金)～平成21年1月23日(金) 17時まで

(郵送の場合も平成21年1月23日(金) 17時まで 必着に限りです)

*平成20年12月27日(土)～平成21年1月4日(日)、募集期間内の土・日・祝日は、持参での提出はお受け出来ませんのでご了承ください。

対象者

吉野川流域内の市町村にお住まいの方

提出先

郵送・持参 〒770-8554 徳島市上吉野町3丁目35
徳島河川国道事務所 公聴会公述人担当係宛

電子メール yoshinoriver@skr.mlit.go.jp

FAX番号 088-654-9177

公述人の募集、選定基準等詳しい内容につきましては、吉野川水系河川整備計画ホームページまたは公述希望届書を手いいただき、確認してください。なお、公述希望届書については、吉野川水系河川整備計画ホームページ (<http://www.yoshinoriver.info/>) にてダウンロードする他、吉野川水系河川整備計画【原案】の閲覧場所(四国地方整備局等、関係機関)にて入手できます。

公述を希望される方は、入手した「公述希望届書」の内容をご確認いただき、ご記入の上、募集期間内に上記の提出先に、持参、郵送、電子メールまたはFAXにて提出してください。

持参または郵送で提出の際には、封筒の表に朱書きで「公聴会公述希望届書在中」の旨、記載願います。

公聴会の開催について

下流域会場

日時 平成21年2月14日(土)
13:00～17:00

場所 徳島県建設センター
(7F 鶴の間)
徳島県徳島市富田浜2-10

中流域会場

日時 平成21年2月15日(日)
13:00～17:00

場所 四国三郎の郷
(交流体験棟)
徳島県美馬市美馬町字境目39-10

上流域会場

日時 平成21年2月22日(日)
13:00～17:00

場所 土佐町保健福祉センター
(2Fあじさいホール)
高知県土佐郡土佐町土居206

よりよい吉野川づくり 吉野川河川整備計画については

<http://www.yoshinoriver.info/>

【お問い合わせ先】

徳島河川国道事務所 地域連携課

TEL.088-654-2211(代表)

ふる～ぶ編集後記



新しい年を迎えました。今年も吉野川や流域の町へ出かけてまいります！読者の皆さんもどんどん情報をお寄せくださいな。(か)



新年を迎えると、気持ちが、きりっとしますね。みなさんにとっていい年でありますように。今年もふる～ぶをどうぞよろしくお願いいたします。(や)



お手玉プレゼント

ふる～ぶめいりリーダー上田佳穂さんからいただいたお手玉(2個)を抽選で1名様にプレゼントします。ご希望の方は、ハガキまたはFAXに住所、氏名、電話番号、誌面の感想もお書きのうえご応募ください。締切は1月30日(金)です。それぞれ模様が違う手作りですので、発送の際には、写真とお手玉の模様が異なる場合もあります。

プレゼント応募先 〒771-1156 徳島市応神町応神産業団地13-28
ふる～ぶ編集部「お手玉」プレゼント係



ふる～ぶは、吉野川流域の市町村役場、図書館、博物館、公民館等の公共施設および道の駅、株式会社阿波銀行の一部の支店と株式会社ファミリーマートの一部の店舗に置かせていただいています。皆様ご愛読くださいな。